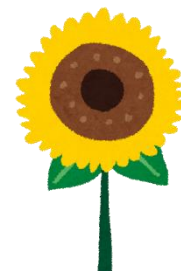




自然科学書協会 会報

NSPA JAPAN

THE NATURAL SCIENCE PUBLISHERS' ASSOCIATION OF JAPAN



2023 年 8 月 2 日 No.3

(通算 104 号)

目 次

1. 理事長就任のご挨拶	2
2. 副理事長就任のご挨拶	3
3. 自然科学の時間：「分子模型復活ものがたり」	5
(高橋 秀依：東京理科大学薬学部 教授)	
4. 第 73 期定時総会・第 73 期第 1 回会員報告会報告	9
5. 第 71・72 期委員会事業総括	12
6. 第 72 期「自然科学書フェア 2023」視察報告（販売・出展委員会）	17
7. 第 72 期第 3 回研修会報告（研修委員会）	19
8. 第 72 期第 4 回研修会報告（研修委員会）	20
9. 図書館等公衆送信補償金制度について（著作・出版権委員会）	21
10. 事務局だより	22
11. 編集後記	24

発行人：池田 和博 / 編集：広報委員会

一般社団法人 自然科学書協会

<https://www.nspa.or.jp/>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 3 階

TEL：03-5577-6301



◆ 1. 理事長就任のご挨拶 ◆

一般社団法人 自然科学書協会
理事長 池田 和博（丸善出版）



7 月 19 日に開催された第 73 期臨時理事会において、前任の飯塚理事長の後を継いで理事長に就任いたしました。

当協会は 1946 年に設立された、創立 70 年を超える歴史ある業界団体です。その代表は大役であり、私自身どこまで重責を果たせるか心配ではありますが、副理事長をはじめ理事の方々、会員社各位のご協力を仰ぎながら精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

出版業界に目を向けると、私たちを取り巻く環境は厳しい状況が続いています。COVID-19 が落ちついても書店には以前の状態までお客様が戻っているとはいえず、売上への影響は否めません。当協会は理学・工学・農学・医学・家政学の分野の専門書を発行する出版社の団体ですが、書

店そのものが減少する中で、そうした専門書の売り場面積が縮小される傾向にあり、書店に行っても店頭で豊富に専門書を手にとれる機会が減少していると言えます。また、今年に入って大学等の教科書の販売はコロナ禍以前よりもむしろ落ち込んでいる出版社が多いと思います。また、改正著作権法 31 条および 35 条の補償金や、インボイス制度など法改正にともなって実務として対応していかなければならないこともあります。そうした事柄に、販売・出展、著作・出版権、研修、広報、総務の 5 つの委員会の活動を中心に取り組んでまいります。

さて、当協会内部のことになりますが、今年度は協会の業務運営にとって転換期といえそうです。2008 年秋より長年にわたり当協会の事務局員として勤められている高山さんが本年 10 月をもって定年退職を迎えられます。各委員会活動や理事会・総会などあらゆる場面で当協会の運営がどれだけ助けられてきたか、とても測れないと思っています。この場をお借りして、敬意を表するとともに御礼申し上げます。

事務局員の交替を迎えるにあたっては、前期から総務委員会を中心に就業規則等の整備がなされました。とはいえ、実際の引継ぎ業務が始まると、規則や規程といった明示されていることだけでは足りず、いろいろな課題が出てくるのではないかと考えています。活動に影響を及ぼすことなくスムーズに引継ぎを行っていくことは、大きな責務と考えています。

課題はたくさんありますが、逆風や荒波の中であっても、自然科学系の専門書は日本の科学・技術の発展に不可欠な知識と情報を提供するもので、現役で研究・開発などに従事されている方はもちろん、将来に向けて学んでいる方々に欠くことのできない存在です。各出版社はそこに誇りと責任をもって出版活動に取り組まれていると思います。自然科学書協会は、そうした会員社のお力をお借りしながらも各社の後ろ盾となるよう、専門書に特有な様々な課題に取り組んでまいります。引き続き当協会へのご理解とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

◆ 2. 副理事長就任のご挨拶 ◆

○村上 和夫（オーム社）

会員社の皆様には、平素より当協会の活動に多大なご支援とご協力をいただいておりますことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

7 月 19 日に開かれた第 73 期定時総会後の臨時理事会におきまして、副理事長を仰せつかりました。前期に引き続きの大役となりますが、梅澤副理事長と共に池田理事長を補佐し、協会内全般を見ながら、全体が活発な活動に取り組み易いように職責を全うしていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当協会は昭和 21 年の設立時から今年で 77 年を迎え、人間で言いますと「喜寿」ということになるのでしょうか。縁起が良く並びのよろしい年となりますので、元気に活動して実りある年となることを祈ります。

さて先日、自然科学書の将来について生成 AI に質問を投げてみました。答えてきた回答は、冒頭からデジタル技術や新しい学習スタイルの変化についての記述がどっさりと出てきました。その最後に「ただし、紙の書籍には依然として価値があり、デジタル化に対応しながらも、書店での販売や個人的な収集品としての役割を果たし続けるでしょう。将来の自然科学書は、テクノロジーの進化と読者のニーズに合わせて進化すると考えられます。」と綴られます。当方の質問が稚拙なのですが、こちらは古い人間ですので何かすっきりとしない論調のように思えてなりません。メディア、コミュニケーションツールの変化、流通の変化への対応はもちろん必要ですが、出版の基本的なミッションが見当たりませんでした。もっとも来週あたりの回答では進化しているかも知れません。私達には、自然科学の分野において、読者の視点を大切にして求められる出版物を生み出し、提供していくというミッションを大切にして事業を継続し、社会貢献していくという使命が第一ではないかと考えます。

現在、出版界は授業目的公衆送信補償金制度への対応、図書館権利制限規定改正への対応、製造原価の高騰、出版流通問題、インボイス対応など多くの課題があります。当協会の委員会活動、そして理事会の中で必要な情報を共有し、全会員社へフィードバックして力を合わせて乗り越えていきたいと思います。

また当協会加盟社のみならず良質な自然科学書の出版活動がより活発となり、社会貢献して行けることを願っております。会員各社様の引き続きのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



○梅澤 俊彦（日本医事新報社）

当初、自然科学書協会理事会に参加させていただいて以来、著作・出版権委員会を担当させていただいておりましたが、この度思いもかけず副理事長を拝命いたしました。

長年、著作・出版権委員会を担当させていただいた中で学ばせていただいたことは、言うまでもないことかもしれませんが、自然科学書を発行する出版社のコミュニティである当協会の重要性です。特に近年立て続けに行われた著作権法改正への対応で感じたことは省庁に対する窓口として日本書籍出版協会を通じて、または直接的に改正法施行までの準備や施行後の運営に関して自然科学書の特殊性について様々な意見を述べる必要があり、様々な分野の著作権者団体に対しては、普段一般の方があまり接する機会の少ないであろう自然科学書の読まれかた、使われ方を説明する機関が必要であるということです。

また他の委員会の活動状況を拝聴する中では流通・販売に関する対応、自然科学書普及のための活動または会員社が諸々の状況把握をするための研修会・勉強会・機関誌の発行が行われ、私どもが自然科学書を発行する上で当協会が様々な面で重要な窓口または自然科学書普及のための発信源となっており、当方も一会員として恩恵を受けていることを再認識いたしました。

昨今の出版界は人々の書物に対する意識の変化を原因とした多くの問題を抱えておりますが、自然科学書はその特殊性から一般書とはまた別の大きな変革の波に直面している様に感じております。これは学生や研究者等の読書環境における「デジタル志向」「アナログ志向」のバランスや情報取得方法に対する考え方の変遷が進行しており、これらの変遷の方向性において、科学を学び知る人々にとって必要な出版物である自然科学書と、文芸、芸術、娯楽等々の出版物とはやや性格が異なることに起因するのかと考えられます。現在、会員社各位におかれましては書籍・雑誌の発行形態、販売形式について様々な思考を重ねていらっしゃる状況にあるかと拝察いたしますが、読者層が特定のであるという特殊性から一般書とは一段違った方向性を考案する必要があるかと思えます。会員各位が置かれた状況に沿って当協会が運営されてまいりますのは必然であり、この変革の波に関する協議も増えていくのではないかと想像いたします。そのような中で理事会運営ひいては協会運営のサポート役を微力ながら務めさせていただきたい所存ですので、ご指導のほどお願い申し上げます。



◆ 3. 自然科学の時間 ◆

「分子模型復活ものがたり」

たかはし ひでよ
高橋 秀依

(東京理科大学薬学部 教授)

1. 「HGS 立体化学モデル」が終売！？

有機化学者は有機化合物の構造を、化学構造式を使って考える。例えば「プロパン」と言われれば、一般の方は、プロパンガスの灰色のボンベを思い浮かべるかもしれないが、有機化学者の頭の中にはくねくねとしたプロパンの化学構造式が即座に浮かぶ。有機化学者にとって化学構造式は化合物を理解するための基本中の基本であり、おそらく世界中すべての有機化学者の共通言語としても通用するだろう。このように化学構造式はとても便利なものではあるが、二次元の紙の上に描かれるため、三次元的な（立体的な）かたちがどうなっているかは、化学構造式に基づいて頭の中でイメージをふくらませるしかない。特に医薬品のような複雑な化学構造式で表される化合物の場合、立体的なかたちを頭の中で完璧に構築するのはとても難しい。そのような時に使われるのが分子模型である。有機化合物を立体的に表すことができる模型は何種類かあるが、「HGS 立体化学モデル」と呼ばれるプラスチック製の模型が世界中の有機化学者に愛用されてきた。筆者もその一人で、学生時代から常にこのモデルを組み立てて、自分が合成している化合物の立体的なかたちをとらえるようにしていた。

そんな当たり前の存在だった「HGS 立体化学モデル」が姿を消した。今から5年程前になる。最初に噂が流れた時は「冗談だろう」と思ったが、やがて書店でもネットでも全く注文することができなくなった。これには参った。軸不斉というとてもニッチな研究テーマを扱う筆者の研究室では、実際に模型を使って化合物をつくり、炭素-炭素結合をくるくると動かして立体的なかたちを知ることからすべてが始まる。そのためには、どうしてもこの模型が必要である。それなのに、研究室の学生は、ボキボキとこの貴重な模型を折って壊していく。「学生に悪気はない。形あるものはいつかは壊れるのだから。」と自分に言い聞かせてはみても、研究室にある模型の在庫がどんどん減っていく現実は変わらない。どうしたものかと頭を抱えた。さらに困ったのは、大学一年生に行う有機化学の授業でこの模型が使えなくなったことである。これまでは、学生にこの模型を使ってシクロヘキサン（環状の六角形の化合物）の立体的なかたちをつくってもらっていた。学生たちは自らの手を動かしてシクロヘキサンのいす形（人が座るいすのようなかたちである）をきれいに反転させ、「すごい！」と驚きつつ立体化学への理解を深めていった。このシクロヘキサンのいす形の反転（図）は他の模型では上手にできない。学生に理解してもらうためには、なんとしてもこの立体化学モデルでなくてはならない。それなのに、今後は手に入らない…。大学の有機化学教育における危機ではないかとすら感じた。

シクロヘキサンのいす形

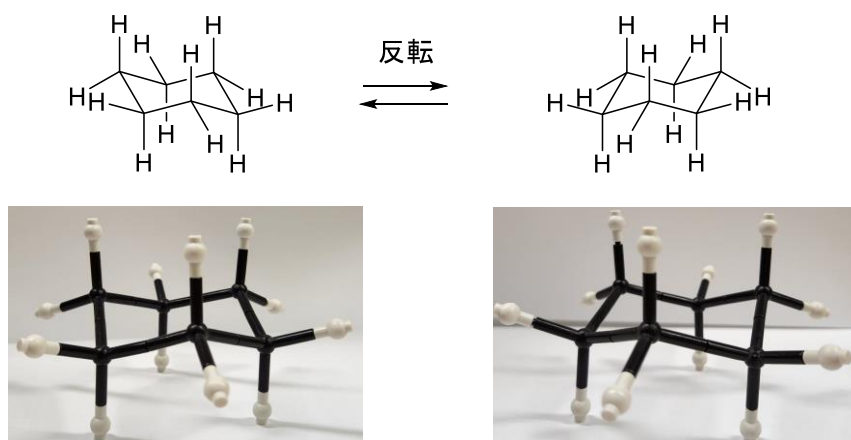


図 シクロヘキサンのいす形の分子模型

2. 新たな模型製造への道のり

悩んでいることが苦手な筆者は、現状打開の第一歩として、この模型が姿を消した理由を探ることにした。調査の結果、中目黒（東京）の小さな町工場がこの模型を製造していたが、もともと赤字経営だったところへ社長が亡くなって会社がつぶれてしまったらしい、とわかった。日本だけではなく、世界中の有機化学者に愛された分子模型が日本の小さな町工場で家内制手工業に近いような状況でつくられていたことに驚いた。仕上げは手作業でやすりをかけるようなことまでやっていたそうで、日本の中小企業のプライドのようなものを感じた。残念ながら、この工場を再建させることはできそうにない。また、プラスチックのモデルを製造するには金型が必要であるが、工場がつぶれてすでに半年余経っていたため、これまで使っていた金型は入手できないだろうこともわかった。

こうなると、この模型を復活させるには、どこかのプラスチック工場にお願いして金型を新たに作り、製造してもらうしかない。それには多額の資金が必要になる。そこで、国内の学会に資金面での援助をお願いした。いくつか声をかけてみたが、公益社団法人となった学会は特定の企業を応援するわけにはいかない、との理由で断られてしまった。そこで、クラウドファンディングを立ち上げて一般の方のご支援を仰ごうと考え、クラウドファンディング請負会社に出かけて行って相談した。しかし、クラウドファンディングは、テレビに取り上げてもされない限り、厳しそうだとわかった。最後は大学教員に呼び掛けて寄付集めをし、加えて自腹を切って……などとかなり追い詰められてしまった。最後の最後、とて、このモデルを販売していた出版社にお願いすることにした。本をつくる出版社に対して「模型の金型をつくってプラスチックのモデルの製造をしてください」なんて言うのは、かなり無理難題な注文であるが、切羽詰まっていたこともあり、ほとんど脅迫するような物言いでもその出版社の方と話をさせてもらった。この時、対応してくださったのが K 氏である。K 氏は「なんとかやってみます。」と言ってくれた。本当に出版社が模型を製造する工場を探して金型をつくらるところから始めてくれるのか、半信半疑で

はあったが、K 氏の言葉を信じるしかなかった。そこで、少しでも役に立ちたいと考え、模型が復活したときの顧客を確保すべく、知り合いの大学教員に片っ端からメールを送り、アンケートに答えてもらい、購入希望を募った。これにはその出版社とは全く関係ない出版社の編集者も協力してくださり、筆者が全く会ったこともない教員にまでアンケートが回っていった。アンケートの結果は、全国の大学教員の多くがこの分子模型の復活を心待ちにしていることを裏付けるものとなり、くだんの K 氏にエールを送るとともに、絶対に模型を復活させねばならないと意を強くした。

3. 新生「HGS 立体化学モデル」

その後、K 氏からは何度となく連絡があった。模型の金型製造を国内の工場で行うことが決まったこと、工場で実際に模型の製造が始まったこと、一つ一つの進捗状況を丁寧に知らせてもらった。試作品ができたときは本当にうれしかった。実際に手で触らせてもらって、より頑丈なつくりになってはいるが、旧モデルとの互換性があることにとても驚いた。アンケートの結果をくんで、多くの教員が容易に購入できるよう、できる限り旧モデルとあわせて使えるように配慮してくれたことがとてもうれしかった。

模型は昨年（2022 年）の初夏から販売が開始された。筆者の研究室でも購入して使えるようになった。これまでよりちょっと頑丈な新たな分子模型は、ボキボキと折れることはなく、学生たちにも好評である。難点を挙げるなら、値段が高いこと、今のところはモデルの種類が限られること、である。六角形の構造であるシクロヘキサンをつくることはできるが、三角形のエポキシド（オキシラン）をつくることはできない。しかし、もうダメかと思った分子模型の復活がなかったことを心から喜び、K 氏に感謝したい。

今年の春、一年生の有機化学の授業でこの分子模型を使った。シクロヘキサンのいす形を実際に学生たちがつくり、くると反転させてもう一方のいす形をつくることができた。「うわ～！おもしろい！」という声が教室中に響いたとき、涙が出そうになった。

4. 分子模型の永続と普及への目標

こんな小さな模型の復活ではあるが、こうやって学生たちに「おもしろい」と思ってもらえたことはとても大きなことだと思う。最近の世の趨勢に倣い、コンピューターの画面を眺めて化合物のかたちを知るのでも事足りるのかもしれない。それでも、筆者はアナログな模型にこだわりたい。有機化学を学び始めたばかりの学生たちにとって、プラモデルのような感覚で模型を組み立てて、そのかたちを手で触って理解することは、頭でイメージするだけとは全然違う。複雑なかたちを組み上げていく過程も含めた楽しい経験が有機化学という学問への興味をかきたて、その後の大学の授業に前向きに取り組む素地をつくると信じている。

筆者のこれからの目標は、せっかく復活したこの模型を含めて、分子模型をずっと永く存在させ続けることである。模型づくりの楽しさは大学生だけではなく、中高生にも通ずるはずである。大学での有機化学教育だけでなく、ぜひ、中学や高校の化学の授業にも浸透させたい。手で触って組み立てて立体構造を知り、有機化学を楽しんでいると思ってこの世界に足を踏み入れる若い人たちが増えていくことを願っている。

－ 執筆者略歴 －



1989 年 東京大学薬学部卒業
1994 年 東京大学大学院薬学系研究科
博士課程修了 博士（薬学）
1994 年 帝京大学薬学部 助手
2000 年 同講師
2003 年 同助教授
2006 年 同教授
2018 年 東京理科大学薬学部薬学科 教授
現在に至る

◆ 4. 第 73 期定時総会・第 73 期第 1 回会員報告会報告 ◆

7 月 19 日に一般社団法人自然科学書協会の第 73 期定時総会が開催されました。COVID-19 感染拡大によって、定時総会は第 70・71 期については人数を絞っての開催とし、前期の第 72 期はオンライン形式での Web 開催でしたが、今回の定時総会は 4 年ぶりに、そうした制限のない通常通りの形での開催となった次第です。

司会・進行の森田総務副委員長より総会成立の報告があった後、定款第 28 条に基づき飯塚理事長が議長の任にあたりました。

定款第 32 条に則り議事録署名人として白石理事、森田理事の 2 名が選任され、下記の議案審議に進みました。

第 1 号議案「第 71 期事業報告書承認の件」については、村上副理事長より説明がありました。過去 3 期に引き続き、COVID-19 の感染状況による影響を受けつつも少しずつ回復基調にある協会事業の推移について、概要報告がありました。

第 2 号議案「第 71 期事業年度収支決算書承認の件」については白石総務委員長より前期差増減の大きな費目を中心に説明があり、貸借対照表としてプラス決算となった旨報告されました。そして監事を代表して長監事より、事業報告および計算書類等の監査結果として、いずれも特段の指摘事項等なく適正であるとの報告がありました。

その後、第 1 号議案・第 2 号議案について議長が決議を図ったところ出席者全員異議なくこれを可決承認しました。

引き続き、第 3 号議案「役員任期満了に伴う新役員選任の件」については、議長より現役員の任期満了による新役員候補者選考の結果、定款第 13 条の定めにより理事 15 名・監事 3 名を候補者としてリストアップしたとの説明があり、これについて議長が決議を諮ったところ出席者全員異議なく可決承認しました。

第 3 号議案可決後、新役員は別室にて臨時理事会を開催し、理事長に池田理事が、副理事長に村上理事、梅澤理事が選任され、池田新理事長のあいさつにて総会を再開しました。

最後に「第 73 期事業計画及び収支予算の件」について報告があり、司会の閉会宣言により第 73 期定時総会は終了しました。

定時総会終了後の会員報告会も過去 3 期は中止としていましたが、今回は対面形式で開催することができました。各委員会から下記の項目を中心に概要報告がありました。

- ・販売・出版委員会（吉野委員長）：函館蔦屋書店において開催されたブックフェアの成果
- ・著作・出版権委員会（梅澤委員長）：授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）および図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB）の運営に関する推移状況
- ・研修委員会（片岡委員長）：ウェビナーによる研修事業の推進・強化
- ・広報委員会（牛来委員長）：Web サイトや業界紙を積極的に活用した広報活動

（総務委員長 白石 泰夫：医歯薬出版）

○定時総会・会員報告会の様子



飯塚尚彦理事長による挨拶



池田和博新理事長による挨拶



○懇親会の様子



飯塚前理事長による乾杯



池田新理事長による挨拶



梅澤新副理事長（日本医事新報社）
による挨拶



及川新監事（養賢堂）
による挨拶



小立新理事（南江堂）
による挨拶

◆ 5. 第 71・72 期 委員会事業総括 ◆

1) 販売・出展委員会

第 71・72 期で販売・出展委員会は下記の通り、「自然科学書フェア」を札幌市と函館市で開催いたしました。

同じ道内ではありますが、異なる商圈で長期間に亘っての開催、かつ各メディア等のご協力により、道内の多くの方々に当協会と会員出版社の存在が周知出来たものと考えております。

昨今の諸事情により残念ながらフェア開催をお引受けいただけないケースがある中で、両店にはフェア開催を快くお引受けいただき、心より厚く感謝申し上げます。

海外のブックフェアへの出展は諸条件が合わず見送ることとなりました。

最後になりますが、当委員会活動にご理解・ご協力いただいた会員社と、鈴木幹太副委員長はじめ多大なるご尽力下さった当委員会の皆様にはこの場を借りて、心より厚く御礼申し上げます。



記

「自然科学書フェア 2022」

- ・ 期日：2022 年 4 月 20 日（水）～6 月 19 日（日）
- ・ 会場： 紀伊國屋書店札幌本店
- ・ テーマ：「未来への架け橋 知識の泉 自然科学書フェア」
- ・ 参加社数：50 社
- ・ 出品：1,180 点 2,599 冊
- ・ 販売実績：436 点 866 冊 2,442,985 円（本体価格）

「自然科学書フェア 2023」

- ・ 期日：2023 年 3 月 1 日（水）～5 月 31 日（水）
- ・ 会場：函館 蔦屋書店
- ・ テーマ：「未来への架け橋 知識の泉 自然科学書フェア」
- ・ 参加社数：51 社
- ・ 出品：1,187 点 2,396 冊
- ・ 販売実績：227 点 328 冊 941,584 円（本体価格）

以上

（委員長 吉野 和浩：裳華房）

2) 著作・出版権委員会

第 71・72 期で当協会は引き続き出版者著作権管理機構(JCOPY)、授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) の運営に構成団体として参加いたしました。また第 72 期では図書館等公衆送信補償金管理協会 (SARLIB) の設立準備に参加し、2022 年 11 月の SARRIB 設立時には当協会も構成団体の一社となりました。

・授業目的公衆送信補償金関連

出版関連に関わる授業目的公衆送信補償金に対しての業務は JCOPY が SARTRAS より受託されており、この業務に関連する JCOPY での協議には当委員会から 3 名の委員が出席いたしました。具体的にはすでに 2021 年度分の著作物利用報告が該当会員社の皆様のもとに JCOPY を通して SARTRAS から送付され、その利用報告の整備作業 (利用された著作物に含まれる全著作権者の抽出作業) を行っていたいただいた次第となります。

2022 年度以降分の整備作業に関しましては 2021 年度分の作業内容を踏まえた形で JCOPY は SARTRAS に契約内容の修正・変更を申し入れており、目下交渉中となっております。

・図書館公衆送信補償金関連

改正著作権法第 31 条が第 72 期中の 2023 年 6 月 1 日に施行されました。これにともない、SARLIB のウェブサイトが立ち上げられ、運用指針や補償金規定が公表されております。

先立って 2022 年 11 月には SARLIB が設立されており、この一連の作業には当委員会から 2 名の委員が参加いたしました。

2023 年 7 月現在、改正著作権法第 31 条による公衆送信サービス開始に参加している特定図書館はなく実際の運用は 2024 年以降になるかと思われます。

(委員長 梅澤 俊彦：日本医事新報社)



3) 研修委員会

第 71・72 期は、当協会主催（あるいは共催）で研修会をそれぞれ 4 回開催しました。新型コロナウイルスの感染予防の観点から、すべてオンラインリモート形式で行いました。

【71 期】

演題：「『JPRO』および『ためし読みサービス』等利用促進について」

講師：浜崎 肇氏ほか（出版情報登録センター（JPRO）センター長）

日時：2022 年 10 月 11 日（月）15:00～16:00



演題：「出版業界 2021 年の振り返りと今後の展望」

講師：星野 渉氏（株式会社文化通信社 専務取締役）

日時：2022 年 1 月 14 日（金）16:30～17:40

演題：「2022 年度税制改正大綱について」

講師：牧瀬充典氏（文化産業信用組合 理事長）

日時：2022 年 2 月 25 日（金）15:00～16:00

演題：「ニューノーマル時代における、正しい引用・要約の作法」

講師：池村 聡氏（三浦法律事務所 弁護士）

日時：2022 年 3 月 7 日（金）16:00～17:30 ※日本電子出版協会（JEPA）共催

演題：「コロナ禍において成長する電子図書館市場」

講師：林 剛史氏（株式会社メディアドゥ 出版ソリューション事業本部）

日時：2022 年 9 月 6 日（火）15:00～16:00 ※工学書協会共催

【72 期】

演題：「JPRO 出版情報センターへの『国際分類』Thema 登録方針について」

講師：大沼伸一氏ほか（出版情報登録センター（JPRO）Thema 対応部会）

日時：2022 年 9 月 21 日（木）14:00～15:30 ※工学書協会共催

演題：「出版業界における最新の Web マーケティング」

講師：佐藤大樹氏（株式会社とうこう・あい HONDANA スマーケティングチーム・チームリーダー）／平野公博氏（株式会社とうこう・あい WEB 広告チーム・チームリーダー）

日時：2023 年 4 月 4 日（火）15:00～16:00 ※講演後、会員社向けに YouTube で限定配信

演題：「インボイス制度移行後の留意点」

講師：星野正史氏（宗和税理士法人 税理士）

日時：2023 年 4 月 21 日（金）15:00～16:00

（委員長 片岡 一成：恒星社厚生閣）

4) 広報委員会

第 71 期と第 72 期の広報委員会における事業総括を報告いたします。

当委員会の役割は会報の発行、当協会ホームページ（以下、HP と略します）の管理・運営、ならびに当協会の活動並びに存在意義を業界内に広く PR することが主な三事業です。

・会報の発行

第一の事業である会報は電子版として予定通り年 4 回発行しました。「会員社訪問 社長インタビュー」や、各委員が企画しました「自然科学の時間」や「専門家に聞く」などを掲載し、読者の方に見やすさと有意義な情報提供をモットーに企画・編集作業をしてまいりました。皆さんにおかれましてはご満足いただけましたでしょうか？ もしなにかご意見・ご要望がありましたらご遠慮なく事務局を通じてお申し出ください。



・HP 運営

二つ目の事業である HP に関しましては、2 年間の任期中で最も力と予算をかけました大幅なリニューアル作業を実績に挙げさせていただきます。インターネットは無限に多様な仕組みができますが、今回は限られた予算のため、見やすさと管理のしやすさを第一に考え、作業に取り組みました。手前味噌ながら思いのほかいいものができたのではないかと実感しておりますが、こちらの気が付かない誤植や使いづらさがありましたら、会報同様に事務局へご連絡ください。

・PR 事業

三つ目の当協会の PR 事業ですが、思いのほか業界における当協会の認知度は低いと痛感し、積極的に PR をしていく必要性を感じました。手段としては、業界紙にできるだけ当協会主催のイベント案内記事や名刺広告の掲載など働きかけをしました。このコロナ禍で当協会主催のイベントが少なく、PR の機会が多くできなかったことは残念に思います。しかし、そのような中で飯塚理事長と丸島社長（新文化通信社）との会談形式のインタビュー記事の掲載企画を持ち込み、2022 年 3 月 17 日発行の「新文化」に掲載されました。業界全体に多数の読者がいますので、広く当協会を PR できたのではないかと考えています。

以上、三つの主な事業を実施できましたのも、全広報委員のご尽力の賜物と感じております。また会員各社の代表者様が素晴らしい方を広報委員にご推薦いただいたおかげと感謝申し上げます。併せて人使いの荒い委員長のもと本業を抱えての委員会活動にご協力いただいた委員の方々にも感謝を申し上げます。

引き続き、会員各社におかれましては広報活動にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

（委員長 牛来 真也：コロナ社）

5) 総務委員会

3 年目を迎えた COVID-19 の影響も、2023 年 5 月 8 日に感染法上の位置づけが 2 類から 5 類に引き下げられたことで一段落し、ようやく少しずつ社会全体が元の動きを取り戻そうとしている状況です。そんな中、総務委員会としては、引き続き会員各社の皆さまの健康・安全を考慮しつつも、積極的な協会運営を維持・推進すべく活動してまいりました。



・ 定例理事会・会員報告会・新年会員懇親会の運営

定例理事会については 2021 年 1 月以降、長期にわたりリモート形式 (Zoom による Web 会議) で開催してきましたが、第 72 期 1 月理事会 (2023 年 1 月 17 日) より、感染状況に配慮しつつも対面での開催を復活させて運営を行っています。

また 2022 年 1 月の会員報告会も 3 年ぶりの対面開催とし、(パンデミック前は例年同日に行われていた) 新年会員懇親会も開催することができました。

・ 感染症・自然災害等発生時の会議・行事等の開催に関する「申し合わせ事項」の作成

感染症や自然災害発生時に、会議やイベントについて Web 開催とするか対面開催とするか、一定の判断基準が必要であろうとの考えのもと、「理事会申し合わせ事項」を作成しました。

今後はこの基準を参照し、協会運営をわかりやすく安全にかつ遅滞なく進めることを目指します。

・ 事務局職員の退職と後任人事

長期間、事務局職員として要職を担ってこられた高山美恵子氏が、来期・第 73 期の 2023 年 10 月にて退職することとなりました。これに伴い、後任の事務局職員に関する採用人事の検討を進め、2023 年 6 月理事会にて後任事務局職員の採用を決定しました。9 月より入職予定です。

また業務引継に支障を来さないよう、高山氏は退職後一定期間嘱託の形で勤務することとなりました。

・ 事務局職員就業規則、賃金・退職金規程、会員旅費規程等の整備

当協会事務局職員の就業規則および賃金・退職金規程等は未整備の状態であったため、職員交代を機にこれらを見直し正式なものとして規程すべく検討を進めました。

また会員旅費規程についても、これまで慣習的に行われていたものを成文化し規程しました。

今後とも、ご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(委員長 白石 泰夫：医歯薬出版)

◆ 6. 第 72 期「自然科学書フェア 2023」視察報告 ◆

第 72 期の自然科学書フェアは、昨年の札幌に引き続き同じ北海道内ですが、商圏の異なる函館市、函館蔦屋書店様にて 2023 年 3 月 1 日～5 月 31 日の過去最長 3 か月間にわたる開催となりました。

フェア終盤の 5 月 11 日、村上副理事長、吉野販売・出展委員長、鈴木同副委員長に私石川同委員を加えた 4 名で視察訪問し、今回フェアを担当していただいた福島様はじめ、専門書ご担当の白井様、荒川様と面会しました。

フェア会場は、1 階アート・哲学コーナーの棚 10 本を空けて使用し、51 社 1,189 点 2,396 冊の本が並びました。高い棚に囲まれているため、照明が暗めではありましたが、ポスター不可のところ特別許可をいただき、アイキャッチとして目立っていました。

売上は 3 月で約 40 万円と、元棚も含んではいますが、「なかなかの売れ行き」(福島様談)で、時期的に図書館の残予算で高額本が売れた例もありました。4 月に入ってやや落ち着き約 30 万円。ゴールデンウィーク中の 5 月第 1 週が 9 万円弱と推移。最終的には 328 冊、941,584 円(本体価格)で、「かなり優秀な数字」との福島様の評価でした。

フェアをご覧になっている客層は、20 代から中高年、男女色々と、「たぶん公立はこだて未来大学だろう」という学生も見受けられ、いつも来店されるお客様と明らかに違っていたそうです。また今回は函館新聞に 3 回の連合広告と、函館のローカルフリーマガジン「peeps」での広告、福島さんの人脈で北海道新聞夕刊にフェア記事掲載があり、広告の切り抜きを持ってこられる目的買いのお客様も目立っていたそうです。

全体の来客数については、札幌・室蘭・旭川の車のナンバーが目立つくらいで、全国からの車でいっぱいになっていたコロナ前には回復していません。

福島様の感想として、フェアでは「マンガで溶接」、「仮病の見分け方」とか意外な本が売れたので、2 階の専門書売場と違う 1 階に置いてみる面白さを感じたそうです。

また、出版社の売れ筋が必ずしも売れる訳ではないので、お店の客層に合わせた選書が必要とのことでした。

(販売・出展委員会 フェア小委員会 幹事：石川省二)



後列左より、村上副理事長、吉野委員長、蔦屋書店 福島氏
前列左より、鈴木副委員長、蔦屋書店 白井氏、石川幹事

◆ 7. 第 72 期第 3 回研修会報告 ◆

日 時：2023 年 4 月 4 日（火）15 時 00 分～16 時 00 分

形 式：Zoom によるリモート形式

テーマ：「出版業界における最新の Web マーケティング―実例からみる Web 広告とファンマーケティング手法」

講 師：佐藤大樹氏（株式会社とうこう・あい HONDANA スマーケティングチーム・チームリーダー）／平野公博氏（株式会社とうこう・あい WEB 広告チーム・チームリーダー）

参加者：40 名

出版社のサイト運営担当者や宣伝担当者に向けて、出版広告に長く取り組んでこられた株式会社とうこう・あい様の実績を基に、昨今の Web を用いた書籍販売プロモーションについて講演いただきました。講演内容は、各種 SNS の特色別に、そのターゲット層や取り扱いタイトルとの相性、さらに、実践的な Web 広告について具体例を挙げて解説いただき、さらに、ファンマーケティングによる出版社の売り上げ拡大の可能性のご提言もありました。

講演後には、当日参加いただけなかった会員社に向けて、4 月 21 日迄の期間限定で、YouTube で講演の録画動画の配信を行いました。この配信は、不特定多数に向けた配信ではなく、会員各社に公開 URL をメールで通知する限定配信形式としました。

（研修委員長 片岡 一成：恒星社厚生閣）

とうこうあい

2023年4月4日（火） 15:00スタート
★まもなく開始しますので、お待ちください。

出版業界における 最新のWebマーケティング

実例からみるWeb広告とファンマーケティング手法

【お願い】

- ・マイクは常時ミュート設定にしてくださいませようお願いします。
- ・チャットのご利用は弊社からご案内した場合は除き、ご使用をお願いいたします。
- ・本ウェブナーの録音・録画はお控えくださいませようお願いします。
- ・セミナー終了後、アンケートへのご協力をお願いします。

※記録用に、遠隔で録画を行います。

1. 出版業界を取り巻く環境

◆ 8. 第 72 期第 4 回研修会報告 ◆

日 時：2023 年 4 月 21 日（金）15 時 00 分～16 時 00 分

形 式：Zoom によるリモート形式

テーマ：「インボイス制度移行後の留意点」

講 師：星野正史氏（宗和税理士法人 税理士）

参加者：38 名

当協会の顧問会計事務所である宗和税理士法人の税理士 星野先生を講師にお迎えして「インボイス制度移行後の留意点」をテーマにご講演いただきました。本講演の後、日本書籍出版協会主催でインボイス制度についての講演開催が予定されていたので、当協会では、出版社の経理担当者に向け、具体的実務に即した内容を中心に、また事前に募集した質問に回答いただく形式でお話いただきました。

講演後にメールにて会員社に対して、講演内容やインボイス制度に関する質問を募ったところ、数社から質問が寄せられました。事務局経由で、星野先生からのご回答文をお送り差し上げております。

（研修委員長 片岡 一成：恒星社厚生閣）



◆ 9. 図書館等公衆送信補償金制度について ◆

図書館等公衆送信経過報告

本年（2023 年）6 月 1 日に改正著作権法第 31 条による図書館所蔵著作物の公衆送信サービスが施行されました。

このサービスを行うことができるのは「特定図書館」のみであり、国会図書館や政令で定める図書館（大学図書館、自治体運営の公共図書館など）が「特定図書館」として申請することができます。そのための要件としましては、（i）公衆送信に関する業務を適正に実施するための責任者の設置、（ii）当該業務を適正に行うための研修の実施、（iii）利用者情報を適切に管理するための必要な措置を講じること、（iv）目的外利用を防止・抑制するための適切な措置を講じること、（v）その他文部科学省令で定める当該業務を適切に実施するための必要な措置を講じることとされており、具体的には利用者の登録のためのシステム構築、担当者への研修、複製著作物の拡散防止措置（DRM）の実施などの要件を満たす必要があります。またサービスの特性上ウェブ決済システムの導入も必要になります。ただ、現時点では「特定図書館」に関しての申請を行う図書館が無いため、実際の運用開始はまだ先になるかと思われます。

皆様すでにご存知のとおり、この図書館公衆送信サービスは利用者が補償金を権利者（電子出版権者等を含む）へ支払うことが必要となります。この補償金の受け取り・分配を担うために昨年 9 月に設立された一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB）では 6 月 1 日の施行に合わせてウェブサイトを開設・公開し、制度の運用のためのガイドラインや補償金の金額を定めた規定を公表しておりますので、ご確認いただきたいと存じます。

運用ガイドラインや補償金規定は完成し公表に至っておりますが、制度施行までの密なスケジュールや先述のとおり特定図書館に関する申請が無いこともあり、実際の運用業務に関わる詳細な協議はこれから開始される予定となっております。この運用業務には補償金の分配方法や、著作権者（電子出版権者等）の利益を不当に害することとなる理由でこのサービスの対象から除外される著作物の選定方法まで専門書出版社にとりまして重要な事項が含まれますので当協会としましても引き続き SARLIB での協議に参加し注視していく所存です。

（著作・出版権委員長 梅澤 俊彦：日本医事新報社）

◆ 10. 事務局だより ◆



●理事会

<第 72 期>

- ・ 4 月 20 日 (木) / 文化産業信用組合
- ・ 5 月 18 日 (木) / 文化産業信用組合

<第 73 期>

- ・ 6 月 14 日 (水) / 文化産業信用組合
- ・ 7 月 19 日 (水) / 出版クラブホール・会議室

●正副理事長・総務正副委員長会議（四者懇談会）

<第 72 期>

- ・ 4 月 17 日 (月) / 文化産業信用組合
- ・ 5 月 12 日 (金) / 文化産業信用組合

<第 73 期>

- ・ 6 月 13 日 (火) / 出版クラブホール・会議室
- ・ 7 月 4 日 (火) / 文化産業信用組合

●委員会

<第 73 期>

- ・ 6 月 6 日 (火) 選挙管理委員会 / 文化産業信用組合
- ・ 6 月 6 日 (火) 役員候補者選考委員会 / 文化産業信用組合
- ・ 7 月 5 日 (水) 販売・出展委員会自然科学書フェア小委員会 / 文化産業信用組合

●監事会

- ・ 6 月 22 日 (木) / 文化産業信用組合

●第 73 期定時総会

- ・ 7 月 19 日 (水) / 出版クラブホール・会議室

●届出事項変更

<研修委員会委員の変更>

株式会社養賢堂 旧委員：加藤 仁 氏 新委員：奥田 暢子 氏

<代表者の変更>

一般社団法人農山漁村文化協会 旧代表者：豊島 至 氏 新代表者：留場 俊明 氏

<当協会に対する代表者の変更>

一般社団法人家の光協会 旧代表者：河地 尚之 氏 新代表者：木下 春雄 氏

<代表者・当協会に対する代表者の変更>

株式会社協同医書出版社 旧代表者：中村 三夫 氏 新代表者：関川 宏 氏

<住所変更>

株式会社 鹿島出版会

新住所：〒104-0061 東京都中央区銀座 6-17-1 銀座 6 丁目・SQUARE 7 階

電話：03-6264-2301/FAX：03-6264-2303

第一出版株式会社

新住所：〒105-0004 東京都港区新橋 5-13-5 新橋 MCV ビル 7 階

電話：03-5473-3100/FAX：03-5473-3166

■2023 年 5 月 8 日（月）に、第 62 回全出版人大会（当協会協賛）が、COVID-19 の感染予防策を取りつつホテルニューオータニ・鶴の間において開催された。昨年（第 61 回大会）は COVID-19 感染症対策として式典のみの開催だったが、4 年ぶりに懇親パーティも含めての開催となった。



◆ 1 1. 編集後記 ◆

会報 2023 年 No.3 をお読みいただきありがとうございます。

特集記事の自然科学の時間「分子模型復活ものがたり」もいかがでしたでしょうか。私もとてもおもしろく拝見しました。毎年販売され定番となっていた教材も、ひとたび終売となれば復活に向けては並ならぬ苦労が必要なのですね。翻って言えば、毎年送りだされていた頃も、制作者は継続のためにいろいろと苦心していたのではないかと思います。やや話はズレますが、ここ数年の気候の変化が尋常でないのも、私もスーパーでぶどうなど「旬の果物」を手取るたびに「来年も変わらずこれにありつけるのだろうか？」と考えてしまったりもしています。

さて、今号の編集・制作をもちまして、第 71/72 期広報委員会の委員としての活動は終了となります。牛来委員長、筑紫副委員長のもと、会報制作や協会 HP リニューアルの打ち合わせなどの活動を通じて委員の皆さまと交流させていただきました。コロナ禍で配慮すべきことも多いなか活動を継続でき、とても貴重な機会となりました。ありがとうございました。

(広報委員会 加藤 義之：建帛社)

● 第 71/72 期広報委員会 ●

委員長：牛来真也（コロナ社）

副委員長：筑紫和男（建帛社）

委員：浜田 亮（オーム社）

山田貴史（化学同人）

門間順子（共立出版）

加藤義之（建帛社）

高田由紀子（恒星社厚生閣）

新井明良（コロナ社）

逸見健介（南江堂）

飯岡千恵子（丸善出版）

